

■ 肢体不自由校における実践事例

いろいろな姿勢で楽しめる マルチメディアDAISY図書

横浜市立上菅田特別支援学校

浅井 麻見 大河原 聡 岡本 浩史



はじめに

横浜市立上菅田特別支援学校は、横浜市保土ヶ谷区にある、からだの不自由な子どもたちのための学校で、児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じるために、小、中、高それぞれの学部において学習グループを工夫して授業をおこなっています。

本校で実践される読書活動には、子どもたちが自分で本を読む活動のほか、絵本や大型絵本を使った読み聞かせ、パネルシアターを使った読書などがあり、授業中や休み時間などさまざまな場面でおこなわれています。

各教室にはノートパソコンを備わっていて、プレゼンテーションソフトを使った教科などの学習や、生徒自身のパソコン操作学習などに使用されています。また、iPadを使用した漢字学習

や興味・関心を広げる学習も取り組んでいます。

A君（小学部2年男子）のケース

① A君について

A君は、自立活動を教育課程の中心として学習しています。人とのかかわりを大変好み、友だちや教員が大好きです。人や物に注視することができ、音楽などにも興味があります。音の出るおもちゃやテレビを見ることも好きです。自立活動の時間には、いろいろな姿勢をとることを目的に、腹臥位、あぐら座位や膝立ち、SRC-Wでの立位姿勢などに取り組んでいます。

また、手指の操作性を高めるために、興味のあるおもちゃやスイッチを使用して学習しています。絵本の読み聞かせでは、絵本に注目して、カラフルな

イラストや面白い表情の絵などを楽しんだり、言葉の繰り返しやテンポのよい語調に笑顔になったりします。

②マルチメディアDAISY図書の利用形態

自立活動の時間にマルチメディアDAISY図書を利用しました。腹臥位、あぐら座位や膝立ちをおこないながら、頭部や体幹を支持することを期待して、マルチメディアDAISY図書を視聴しました。見やすい位置にパソコンを置き、パソコン操作は、教員がおこないました。教室には、他に5～6人の子どもたちと教員がいて、それぞれが課題学習をしていました。

利用した作品は、『わにさんどきっ はいしゃさんどきっ (紙芝居風)』『ノンタン にんにん にこにこ』『11ぴきのねこ (紙芝居風)』です。それぞれ、別の日におこないました。

③A君の反応

パソコンの画面に集中し、よく見ることができました。途中から声を出して楽しんでいる様子もありました。画面を見ようと頑張るため、長めに頭部や体幹を支持することができました。『わにさんどきっ はいしゃさんどきっ (紙芝居風)』は、ワニと歯医者 の声の違い、対象児童にはわかりやすかったようです。8分程度の作品が、集中力が持続するちょうどよい時間でした。

時間が長くなると、途中で飽きてしまい、姿勢が崩れたり、他へ興味が向いてしまったりしました。



B君 (中学部1年男子) のケース

①B君について

B君は、自立活動を中心とした学習グループに所属しています。読書活動は絵本の読み聞かせを中心におこなっており、ことばのリズムやテンポ、イントネーションなどの響きや、繰り返しの言葉を楽しんでいます。また、飛び出す絵本やDVDに興味を示しています。

②マルチメディアDAISY図書の利用形態

B君の学習課題に「立位姿勢の保持」「下肢への荷重経験」があります。この学習をする時には、DVDや、押しボタンスイッチなど興味のあるものを立位時の目線の高さに置いて学習しています。そうすることで、教材がよく見えるように足にしっかりと体重を乗せて、背筋を伸ばし、正しい姿勢をとろうとすることができます。

そこで、B君が立位の学習をする際に、マルチメディアDAISY図書を使用しました。

③ B君の反応

今回使用したマルチメディアDAISY図書は、ナレーションにあわせてイラストがスライドしていくものでした。ストーリーの展開がわかりやすく、読まれている部分の文字が強調され、ストーリーを知る学習、ことばの学習には有効だと感じました。

しかし、B君が楽しみにしている「言葉の繰り返し」「言葉の響き」については、ナレーションを自由に操作することが難しく、あまり効果的ではありませんでした。また、イラストに注目させたくても、文字を追って画面が動くため、注目をさせるのが難しかったのです。

そこで、B君が興味をもてるように、リズム感のある言葉の部分でナレーションを一時停止して教員の声で言葉を繰り返したり、リズムやイントネーションを強調して読んだりしました。注目させたいイラストは指さしをしてアピールすることで意識させました。

C君（高等部2年男子）のケース

① C君について

C君は自立活動を主とした教育課程をおこなっている生徒です。学習内容は、身体に関すること、手指の操作・感覚に関する活動をおこなっています。毎日継続してストレッチをおこなうことで、体の硬縮変形の予防・維持を目

指し、C君が強く興味をもっている音のでる玩具や楽器などを用いて、自ら手を動かして操作したり学習に活用したりしています。

歌や楽器や音の出る物が好きで、耳を近づけ音を楽しんだり、自分で触れて音を出したりしています。また、歌を聴くことや読み聞かせも好きで、好きな歌を歌うことや好きな絵本を読むことを繰り返し要求することがあります。

② マルチメディアDAISY図書の利用形態

じゅうたんが敷かれている部屋で学習をおこなっています。学習時の姿勢は、おもにクッションチェアに座ってテーブルを使用したり、じゅうたんの上で割り座やあぐら座位をとって手元で生徒自身が操作できる姿勢で、学習しています。

ふだんの絵本の読み聞かせはクッションチェアに座って聞きます。ページをめくる作業を生徒におこなわせながら、教員と近い位置で学習をおこないます。

そこで、DAISY図書の利用でも絵本の読み聞かせと同様、生徒が集中して取り組めるようにクッションチェアに座って学習をおこない、生徒の目線が画面と同じ位置になるように机の高さを調整するなど、場の設定に配慮しました。

③C君の反応

「教員の声を聞いて話の内容をおおまかに理解する」「絵本に描かれている絵に注目し、絵本に出てくる動物や人物、物事に興味をもたせる」ことをねらい、取り組みました。

生徒が画面を見やすいように場の設定をおこなったため、画面に注目して活動することができました。とくに、知っている絵本の内容であれば、話の冒頭部分で理解し、体を揺らして喜ぶ姿が見られました。初めて聞く話であると、絵を見ながら音声をよく聞こうとしましたが、画面から絵が見えなくなってしまうと、少し退屈そうになりました。

みんなの声

実際にマルチメディアDAISY図書を使用する中で、以下のような意見が出てきました。

- 特別支援学校では、「見ること」の苦手な子どもが多いです。耳からの情報も大切にしたいという観点から、発音やイントネーションなどを改善してほしいと思いました。
とくに「ノンタン」のお話は、語感やフレーズを楽しむものだと思いますが、マルチメディアDAISY図書に収録されている音源（音声）では、そのおもしろさが伝わらず、子ども

は興味をもてませんでした。

- パソコンで再生すると、音が小さかったです。ソフトのボリュームと、パソコン本体のボリュームを両方も最大にしましたが、同じ教室で別の学習をしている子どもがいると、その子や教員の声のほうが大きく、パソコンからの音がほとんど聞こえませんでした。
- 聴覚からの情報を増やすという点で、効果音やBGMが入れば、さらに子どもが興味をもつことができると思います。絵の一部をクリックすると、音が鳴るなどの工夫があると、スイッチと連動させて手指操作の練習にもなり、子どもが意欲的に取り組めると思います。
- だれのセリフかがわかりにくいです。1ページに何人も登場人物がいる場合には、セリフを言っている人や動物のみを画面に出したり、口調を変えるなどをしたほうが、子どもが注目しやすいです。
- 読書活動にはさまざまなねらいがあります。その中でも「ことばを楽しむ・親しむ」ことが学習のねらいとして位置づけられる子どもも多数います。そこで、「音声を録音したり

操作・保存できる機能」があると思います。「ナレーションを繰り返す」ことや「イントネーションやリズム感を楽しむ」という活動もおこなえ、より幅広い読書活動に対応できると思います。

- 自動で文章を読んで、それに伴って画面上でもいまだこの部分を読んでいるのか、その文章が出てきます。しかし、絵をもっと注目させたいので、文字を追わないシステムもあれば、絵と文章のリンクができてよりよい読書活動ができると感じました。

このように、とくにナレーション・音声面、イラストや文章の表示方法の工夫がさらにおこなわれることで、幅広い実態の子どもたちの読書活動に効果的なツールとなると思います。

また、使用する教員は、場面や学習のねらいを考えたうえで、子どもたちにとってどの形態の図書を利用することが効果的なのか選択することが大切だと考えます。



イラスト：上菅田特別支援学校